

食べるってどういうこと？

～食のバランスについて考えよう～

倉田 沙耶香（熊本大学教育学部附属特別支援学校） 福永 哲也（熊本大学教育学部附属特別支援学校） 八幡 彩子（熊本大学大学院教育学研究科）

① Introduction | 「食べること」の大切さを知ってほしい

4月から働く生活が始まる。疲れから睡眠を優先させて「食」がおろそかになり、栄養の偏りや体重減少などの様子がこれまでの卒業生から見られた。栄養や調理の学習はしてきたが、「なぜ食べるのか」という、食べる大切さを伝えきれていなかったように思う。本題材は、卒業後の生活を見据えて、食の必要性を自分で考え、答えを導き出す学習の一考察である。

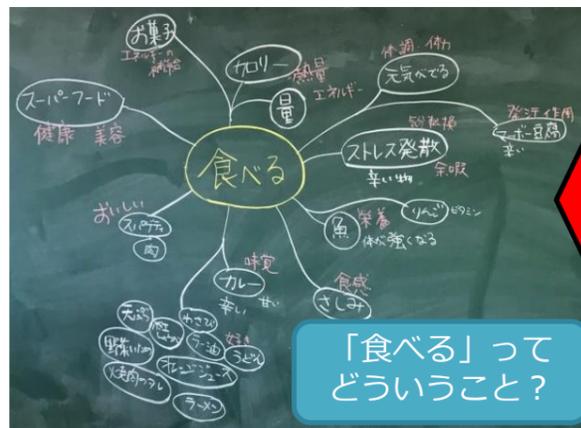
目的・「食べること」の大切さを知り、よりよい食生活を自分で実現できる生徒の育成をめざす授業づくりを考察する。

方法・生徒自身が考える場面を大切に、課題設定からまとめまで、見通しをもって取り組めるようにする。
・S研を授業後にいき、よりリアルな生活場面を設定した学習内容や活動になるように授業改善を行う。

2) 主体的な活動の工夫

思考ツールの活用

①「考える場面」の設定 ②「考えるためのツール」の活用



国語科「説明文を書こう」の様子

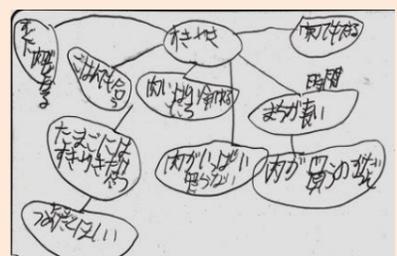
他教科でも「思考ツール」を活用しています

学びの変化



考える場面の設定を意識して授業づくりを行ったことで、生徒一人一人が考え、判断し、友達と話し合いながら答えを導き出す姿が多く見られるようになった。

↑ 調理に必要な材料や道具を揃えている様子



国語科「説明文を書こう」のワークシート抜粋

1年間で取り扱う内容 (高等部3年)				
家庭の役割 家庭での役割とは？ 2h 夏休みの過ごし方を考えよう 1h	消費と余暇 収支って何？ 4h 余暇の計画をしよう (生単取扱い) 2h	道具・器具等の取扱いや安全・衛生 朝食を作ろう 2h	家庭生活に関すること 食器洗いの名人になろう 2h シミを取る方法を考えよう 2h 食のバランスについて考えよう (買い物学習含む) 5h どんな服を着る？ ~通勤着・制服・私服~ 2h 快適な空間で生活しよう 5h	保育・家庭看護 乳幼児について学ぼう ※外部講師 1h
星は本題材				
まとめ ~卒業後の生活をイメージしてみよう~ 2h				



授業改善～S研の様子～

買ってきた物の他に調味料や別の材料などの扱いも考えたいな

道具も色々と提示してみようか

必要な材料以外にも提示してみる？

3) 家庭との連携 宿題 & 家庭ブック

- ①学習した物と同じ課題「コンセプトのある朝食」を冬休みの宿題として出した。
- ②卒業後にも活用できるように、学習した内容(スライドや資料等)を1つの本にまとめた。

宿題の様子



家庭ブック



② Model | 授業づくりのポイント～主体的・対話的で深い学び～

Keyword 主体的な学びを促す探究的な学習 実際の生活場面をリアルに設定

1) 授業構成

つかむ→さぐる→深める→まとめる
 バイキングで食べた物を振り返り、栄養について考える(第1次)

<p>・バイキングの様子の写真を見る ・今日の学習内容を知る</p>	<p>・自分にとって「食べる」とは何かを考える ・六つの基礎食品群と食事バランスガイドについて学ぶ</p>	<p>・写真を見て、バイキングで食べた物を振り返る ・自分の食事内容について考える ・グループでよりよい食事の内容について話し合う</p>	<p>・話し合った内容を発表する ・栄養素の視点でまとめる</p>
つかむ	さぐる	深める	まとめる

③ Result | 実際の生活に近い場面、状況をいかにつくりだすか

- ・授業の流れを「つかむ→さぐる→深める→まとめる」にしたことで、①生徒が自ら課題を設定し、②情報を収集し、③整理や分析を行い、④気づきをまとめ、発表する探究的な学習が定着した。
- ・実際の生活場面では想定外が多々あることから、「探究すること」が定着したことは、実際の生活場面において、とても価値がある。自分で課題に向き合う態度が育ったことが成果である。
- ・栄養素については、保健科でも取り扱う内容である。今後、他教科との棲み分けや教科間の連携が必要であり、課題である。

④ Conclusion | 卒業後を見据えた家庭科の取組を振り返って

- ・生活の主体は「自分だ」という自覚を育てることが大切。
- ・具体的でリアルな体験と友達や教師との対話を重ねることで主体者としての自覚や態度が育まれていく。
- ・生活面での自律や自己管理の成功体験を在学中にたくさん積み重ねることが大切。そのためには家庭との連携が不可欠である。